

高校生世代の医療費無料化を望む



備前島久仁子



町長

慎重に判断していきたい

質問 医療費の無料化を中学生から高校生世代までに拡充した場合、その対象人数と町の負担額は。

答弁 町長 対象人数は、4月1日現在で954人となり、増加する町の負担額は、入院費と通院費を合わせて概算で3000万円程度となる。また、入院費のみの場合は、300万円程度となる。

質問 玉村町の高校生は自転車通学が多いため、けが等で入院する可能性があると考え。子育て支援の一環として、まずは高校生世代の入院費の無料化を進めるべきでは。

答弁 町長 高校生が自転車通学の際、けが等で入院した場合の医療費は、学校管理下に該当するため、災害共済給付の対象となり、基本的に公費での負担はない。入院費の無料化については、他市町村の状況も踏まえ、慎重に判断していきたい。

質問 健康増進・スポーツ推進の町へ向けた取組は



安心して医療を受けられるよう高校生までの医療費無料化の推進を

質問 高齢者の施設使用料の負担はどのようになっているか。

答弁 教育長 現在、社会体育館、総合運動公園、B&G海洋センターは、町民で65歳以上の個人利用者は無料となっている。

質問 高齢者スポーツ団体の活動について、どの程度把握しているか。

答弁 教育長 玉村町体育協会に加盟している高齢者の多い団体は、ゲートボール

協会及びグラウンドゴルフ協会である。ゲートボール協会は、登録が2団体あり、会員数11名で、その会員のほとんどが80代である。グラウンドゴルフ協会は、登録が21団体、会員数231名、平均年齢が75歳である。両協会とも日々の練習に励み、各種大会へ参加している。なお、体育協会に加盟している多くの団体で会員数が年々減少し、高齢化も進んでいるのが現状である。

質問 高齢者が数人でスポーツ団体を作った場合、何か補助制度はあるか。

答弁 健康福祉課長 ふれあいの居場所として登録すると、要件はあるが居場所づくりの運営に対する補助制度が活用できる。

こんな質問もしています

- ・今年度の通学路の危険箇所改善対策について
- ・ふるさと納税の充当事業と充当額の割合について